

«別紙1» 3. 履行場所（拠点）に設置する備品等

- ・事務用机 1台
- ・事務用椅子 1脚
- ・コピー機 1台
- ・オンライン会議専用パソコン 1台
- ・プロジェクター 1台
- ・スクリーン 1台
- ・マイクロフォン 2台
- ・オンライン会議専用カメラ 1台
- ・ホワイトボード（固定式、高さ 1700mm×幅 1250mm） 5台
- ・ホワイトボード（固定式、高さ 1750mm×幅 950mm） 1台
- ・ホワイトボード（可動式、高さ 1800mm×幅 1300mm） 3台
- ・ホワイトボード（可動式、ボード面高さ 900mm×幅 1200mm） 3台

«別紙2»未来共創会議 委員構成

※敬称略

役職	氏名	属性
会長	山田 雄三	福岡大学 社会連携センター 助教 福岡市共創による地域づくり推進協議会 委員
副会長	奥 弘子	神興東地域郷づくり推進協議会 福祉部会 副部会長
委員	江藤 彰洋	合同会社ミチクサ 代表
委員	木本 圭子	郷育推進会議 会長 郷育カレッジ運営委員
委員	中川 孝晃	共働推進会議 委員 行政評価委員会 委員
委員	山口 覚	津屋崎プランチLLP 代表 慶應義塾大学 特任教授
委員	谷口 篤	福津市 市民共働部 地域コミュニティ課 課長

«別紙3»場づくりファシリテーター実践塾 BA-School（バススクール） 特記仕様書

場づくりファシリテーター実践塾 BA-School（バススクール）（以下「バススクール」という。）は、1年度に1クール実施し、実践と見直しを繰り返しながら、福津市の現状に合わせた、持続可能なまちづくりの担い手の発掘・育成を目的として、福津市未来共創センター（以下「センター」という。）が独自に開発したプログラムである。

本業務において、バススクールを以下仕様に基づき、1年度に1クール実施すること。

1. 講座内容の特徴

以下のとおり、福津市におけるまちづくりを促進する上での課題から、講座の特徴を整理し、プログラムを構築している。その特徴を踏まえて、講座を実施すること。

福津市における、まちづくりを促進する上での課題

◆きっかけづくりの必要性

福津市は2008年以降、人口が約1.2倍に急増している。新しく、福津市民となった人がまちに関わるきっかけづくりが求められている。

◆分野や世代を超えた仲間の必要性

市内の市民活動団体は、高齢化やメンバーの固定化が課題となっている。分野や世代を超えたつながりのきっかけづくりが求められている。

◆福津市の魅力と課題を知る必要性

まちづくりを行う上で、その前提として現在の福津市の現状と課題を知り、未来づくりの土台をつくることが求められている。

◆新しいスキルの習得の必要性

多様な価値を受容する寛容な地域づくり、持続可能な地域づくりなどに対応した新しいスキルが求められている。

◆ポジティブアプローチの必要性

地域の問題点を起点にまちづくりを行うことをネガティブアプローチと言う。自分の好きなこと、やりたいことを起点に結果的にまちづくりにつながる方法をポジティブアプローチと言う。担い手を育成するにはポジティブアプローチが重要になっている。

◆アイデア力（想像力）を鍛える必要性

価値観の多様化、社会の急激な変化、デジタル活用の可能性などを背景に、常識に囚われない新しいアイデアによるまちづくりが求められている。

講座の特徴

◆全体

- ・好きなことを起点に地域づくりとの接点を考えるプログラム
- ・普通の人がまちづくりを意識せず、楽しく講座に参加していると、いつのまにかまちづくりの一員になるプログラム
- ・まちづくりのみならず、仕事や家庭でも役立つ「対話」と「ファシリテーション」を学ぶことのできるプログラム

◆受講生に提供する価値

- ・仲間ときっかけを作る場所を提供
- ・まちに関わることの喜びを提供
- ・まちづくりのノウハウを提供

◆地域に提供する価値

- ・受講生同士のネットワークづくり
- ・卒業生から事務局協力者を生む仕組みづくり
- ・市民・企業・市民活動団体をつなぐ
- ・結果としての地域課題の解決

2. 講座の名称

「場づくりファシリテーター実践塾 BA-School（バスクール）」とする。過去実績による認知度と、関係者とのつながりを本業務においても生かすために、名称を継続するもの。

3. 募集定員

場づくりを行う上で、チームワークの醸成を図ることを重要視するため、定員は15名程度とする。併せて、受講を希望する者に対し、面接を実施し、志望動機とバスクールが提供できるものが合致しているかどうか判断した上で、受講生を確定させること。

4. ターゲット

「地域の人とつながるきっかけが欲しいがそのチャンスがない。どうすればよいかわからないという人」をメインターゲットとすること。具体的には以下と考える。

(具体例)

- ・新しく福津市民となった人（移住後、数年程度の人）
- ・市内の市民活動団体とのつながりがない人
- ・外国籍の人
- ・趣味や好きなことを生かして、福津で何かがしたい人
- ・市内の市民活動団体に所属していて、新しいアイデアが欲しい人
- ・市民活動団体のメンバーの固定化・高齢化に悩んでいる人
- ・福津のまちに関わりたいと思っている福津市外の人 など

5. ロゴタイプ、デザイン、キャッチコピー

以下ロゴタイプ、デザイン、キャッチコピーを使用すること。過去の講座において、ポスター、チラシ、市公式ホームページ内のバスクールサイトにおいて、使用してきたことから、受講生だけでなく、市民がバスクールの取組であることを想起しやすいものである。

デザインデータは、PDF 及びイラストレーターで市から提供する。



6. 講座の回数

全6回で実施するものとする。開催日は、土曜日・日曜日の日中を基本とする。「人が集まり、語り合う良い場」に関し、学びと実践をとおして、スキルを身につけるために必要な回数として設定している。

7. 講座内容

別添1「事業プログラム・スケジュール実績（令和4-7年度）」、市公式ホームページ「バスクールサイト（以下参照 URL のとおり）」に示すステップで、以下内容を実施すること。

■参照 URL

<https://www.city.fukutsu.lg.jp/soshiki/chiikicom/kyoudou/kyodo/lab/11200.html>

（1）新しいスキルの習得

場づくりを行う上で最も重要な「心理的安全性」をつくり、自由に話し合いができる環境や合意形成を図る技術であるファシリテーション（話し合いの促進役）について学ぶ機会を設けること。また、SDGs 未来都市である福津市のことより深く知るために、ゲーム感覚で SDGs について学ぶ機会を設けること。

（2）分野や世代を超えた仲間づくり

自治会、郷づくり推進協議会、PTA、福祉・商工・観光団体など、分野ごとの市民活動団体を横断しての仲間になるための機会をつくること。さらに、高齢化が進んでいる市民活動団体と若年層の市民など、年齢差がある市民が仲間になるための機会をつくること。

（3）福津市の魅力と課題を知る

受講生が講座内で取り組むプロジェクトを生み出す前に、福津市の現状や課題そして魅力を学ぶ機会を設けること。

（4）ポジティブアプローチ（好きなこと × 地域に良いこと）

まちづくりの多くは地域の問題点から解決策に取り組んでいく「ネガティブアプローチ（消極的なアプローチ）」を取ることが多い。スクールでは「ポジティブアプローチ（積極的なアプローチ）」という、好きなことを起点に地域の課題と結びつけ、やりがいと喜びを感じながら自然とまちづくりへつながる流れを作ること。

（5）小さな実践をやってみる

スキルを身につけても、実践をすることで初めて理解できることも数多くある。よって、まずは小さく実践してみる機会が必要と考える。スクール講座内で、何人かでチームを組み、アイデアを「いつ、どこで、何をするか」を決めて、プログラムを作ったり、人集めをしたりして、場づくりの一連の流れを学ぶ場を提供すること。

8. 事業目標

以下項目を目標に講座を実施すること。

- （1）「まちづくりや市民活動をやってみたいけれど、どうして良いかわからない」という潜在的なまちづくり人材を発掘し、行動に移せる仲間づくりときっかけづくりの場を提供する。
- （2）過去の受講生が事務局のサポートを行ない、裏方の一連の作業をする人材「メンター（事務局協力者）」として活躍できる機会を提供する。
- （3）新しい受講生と、過去の受講生、市内の市民活動団体（任意団体、事業者、企業など）が出会い、関係性を深める機会を提供する。

9. 運営体制

バスクールの円滑な企画運営のため、以下を担う運営担当者、メンター（事務局協力者）、担当者補助員を配置すること。

運営担当者	<ul style="list-style-type: none">事業の全体統括（企画及び運営、進捗管理）事業に必要なゲスト、メンター、コネクター等、関係者との打ち合わせ事業周知（受講生募集、公開講座、発表会・交流会の参加者募集）受講希望者の面接の調整及び実施各講座の案内及び出欠確認受講生の伴走支援の統括受講生、メンター、コネクターとの連携支援受講生の場づくりのためのチラシのチェック受講生の場づくり補助金の管理及び調整（1グループ 1.5 万円程度）事業結果のふりかえり
メンター	<ul style="list-style-type: none">講座の出席及び運営サポート（チームづくりがある第3回以降）受講生の場づくりの伴走支援（メイン担当）受講生の場づくりの出席及びサポート <p>※全体業務に対し、3 万円／人の謝金を支払うこと。</p>
担当者補助員	<ul style="list-style-type: none">運営担当者の補助受講生の広報支援（市公式 HP 及び SNS、センター所有の SNS 等）受講生の場づくりの会場、ゲストの紹介市施設や関係組織との連絡調整

10.工程・スケジュール

別添1「事業プログラム・スケジュール実績（令和4-7年度）」及び市公式ホームページバスクールサイト（以下参照URLのとおり）を参考に、バスクールの工程、スケジュールを作成し、市の承認を得たのち、業務に取り組むこと。

■参考 URL

<https://www.city.fukutsu.lg.jp/soshiki/chiikicom/kyoudou/kyodo/lab/11200.html>

※市が想定するスケジュールは以下のとおり

受講生 募集開始	広報ふくつ4月号発行日（令和8年3月25日前後）
受講希望者 面接実施	令和8年5月中旬から下旬
バスクール 第1回開催	令和8年6月
バスクール 第6回開催	令和8年12月